

安倍総理突 国内外

然の辞任に思う

での実績評価の乖離

伊藤 澄夫

伊藤製作所社長
中京大学特別栄誉客員教授

2011年の春、櫻井よしこ氏の講演で、次期総理候補は安倍さんしかないと言われた。私も参加者もほぼ全員が同意していた。そして翌年12月、野田政権が総選挙で惨敗し、第一次安倍政権が発足した。残念ながら、わずか1年で体調不良のため辞任されたのは衝撃だったが、今回も同じ理由での退陣となった。

しかし、歴代の総理の中で最長の任期を務め、日本経済や外交において無類のリーダーシップを発揮された。任期中の訪問国と地域は延べ176カ所に及び、距離にすれば地球を40周回ったこととなる。これほどエネルギーシユな行動は、並みのトップリーダーには不可能な激務と言える。また、東南アジア諸国の安倍総理に対する期待度は、日本国民が思う以上なのだ。

8月28日の辞任会見は、体調が心配される中、1時間以上に及ぶ丁寧な内容だった。

米国の調査会社による「世界で良い国」で、日本は昨年5位にランクされたが、今年はスイスに続

終の訪問国はベトナムだった。1月16日のハノイでの記者会見で、多くの参加企業がある中、安倍首相が当社の海外事業を紹介された内容を記したい。

『20年前、フィリピンに進出した三重県の金型メーカーは、長年人材育成に取り組んできました。今や、高度な金型も、現地スタッフの皆さんだけで製作できるそうです。4年前、インドネシアでも合弁会社を設立し、同じように、インドネシアの若者たちの技術向上に取り組んでいます。日本の技術を、単に持ち込むのではなく、人を育て、しっかりとその地に根付かせる。これが日本のやり方です』

その年、春の叙勲をいただき、8月に名駅のホテルで祝賀会を開催した折には、総理から心温まる祝電をいただいた。

日本を任せられる人

このように感謝と尊敬する総理であるが、昨年、秋の足音が聞こえるころ、とんでもないニュースが飛び込んできた。中国の習近平

き2位となった。10位までの国々は、日本以外はすべて欧米諸国だ。そんな民度の高さが世界で評価されているにも関わらず、日本のマスコミの記者の質の低さに閉口した。地方新聞の一人は安倍総理にねぎらいの言葉をかけたが、他社の記者は誰一人ねぎらいは無く、この会見でそのような質問をすることかと思わされるなど、褒められるような質問は少なかった。

欧米のトップリーダーは安倍総理の実績を評価し、彼からリーダーシップのやり方を乞う政治家も多いのだが、国を長期に良い方向に導いたリーダーに、記者らは上から目線の質問。それが進んだ民主主義国家の姿と考えているのだから。

訪フィリピンに同行して

17年1月13日、安倍首相がフィリピン・デュテルテ大統領の故郷のダバオに政府専用機で訪問された際、同行させていただいた。

空港から大統領の邸宅へと車で移動したが、国民の歓迎、特に学生や子供の私たち一行への歓迎ぶ

主席を国賓としてお迎えするといふもの。日本とは経済や領土で定期的な摩擦があり、周辺諸国への弾圧や欧米の中国に対する評価が最悪となっている。この時期のお迎えは、アジアや世界からのブーイングを避けられまい。

一国民の私が騒ごうとどうしようもないが、秋、永田町の知人に国賓としての招待に断固反対理由のメールを作成した。結局、民間人の私には想像もできない、それなりの外交事情があるのだろうと考え、メールの送信は取りやめた。

この原稿作成中の9月16日、新総理が菅さんに決定した。過去のある時期、安倍総理の次は安倍さんしかないという論評が多かったが、私なりの次期総理を予想したい。「次期総理は安倍さんが3度目の首相に返り咲く」と期待している。

野党は些細な事例に対して常に安倍総理を非難してきた。天下を取ろうとする意味では当然の行為かもしれないが、日本を任せられる人物が野党にいるとは思えない。と考えるのは私だけではない。

りに仰天した。大統領や市長から国民に、安倍総理一行に対して歓迎するよう依頼があっても、あれ程の熱い歓迎にはならないだろう。筆者は30年間のフィリピンとの付き合いがあり、フィリピン人が日本人に好感を持っていることは理解していたが、それ以上のものがあることを実感した瞬間だった。どの国の総理がこれほどの歓迎を受けられるだろうか。日本国民として自慢しきれない光景だった。残念なことに世界に誇れるこの光景を、日本のマスコミは数十秒の紹介にとどめた。

これほどの実績を上げた安倍総理から若干の関わりをいただいたことに、社員ともども光栄に思っている。安倍総理がアジア諸国を歴訪していた時期、新報道2001のテレビ番組で、「伊藤社長の中韓以外のアジアで事業を進めている経営スタイルは安倍外交に通じるものがある」と報道されたことで、当社の海外事業に自信を持てた。

先に述べた安倍総理のアジア訪問は、フィリピンのダバオ市から、豪州、インドネシアと歴訪し、最

体調が悪化した安倍総理にはやらなければならないこと（拉致問題や北方領土、憲法の改正、世界の目標となる国家づくりなど）を無念に感じているだろう。

再度言いたい。世界が激動し、近隣に身勝手な国が存在する以上、日本には彼が必要なのだ。



いとう・すみお

1965年立命館大学経営学部を卒業後、伊藤製作所に入社。1986年同社代表取締役就任、現在に至る。順送り金型メーカーの老舗企業であり、国際競争力のある金型製造技術の確立に努め、無人化、高速化、精密化を追求したプレス加工で卓越した技術力を誇る。
(社)日本金型工業会・副会長、国際委員長を歴任。中京大学大学院ビジネスイノベーション研究科客員教授、国立ソウル科学技術大学校金型設計科名誉教授、神戸大学非常勤講師などを務めて後進の育成に寄与。
2017年4月春の叙勲「旭日単光章」受章。
著書に『モノづくりこそニッポンの砦』『ニッポンのスゴい親父力経営』がある。